

コクチバスの生息状況（奥利根地域）

水産試験場 松岡 栄一

【はじめに】

コクチバスは、「外来生物法」に基づき、運搬、放流、飼育等が禁止されている「特定外来種」であり、魚食性が非常に強く、在来魚に与える影響は大きいことから駆除が求められている。群馬県の奥利根湖でコクチバスが初めて確認されてから 10 年以上が経過した。奥利根湖は利根川水系の最上流部に位置しており、下流への生息拡大が懸念されている。そこで、今回、直下流にある洞元湖における生息状況調査と、奥利根湖で実施されているコクチバス駆除事業の作業記録簿から解析した結果について報告する。

【材料および方法】

1 洞元湖の生息確認調査

利根漁協管内の洞元湖において、水温が上昇してコクチバスの産卵時期にあたりと考えられた 2013 年の 6～7 月（6 月 20 日、7 月 10 日、7 月 17 日）に釣獲調査、産卵床調査および水温測定等を行った。釣獲調査は護岸からルアーと餌（ミミズ等）により行い、産卵床調査はボートから目視により行った。

2 奥利根湖の駆除事業からの解析

奥利根湖では、管轄する利根漁協が主体となり刺し網と遊漁者からの回収によるコクチバス駆除作業を行っている。漁協組合員の作成した奥利根湖コクチバス駆除作業記録簿から駆除数等の推移を把握した。

【結果および考察】

1 洞元湖の生息確認調査

洞元湖は南北に長い湖沼であり奥利根湖からの放水と矢木沢、清水倉沢、芹沢等の沢が合流している（図 1）。矢木沢合流地点では放水等の影響が考えられ調査期間中の水温は 10℃に達しない日が多かったが、下流部の沢の合流地点では 7 月に入り 20℃近くに達した（図 2）。

生息確認調査の結果を表 1 に示した。7 月に入り、ボートから目視により産卵床調査を行っていたところ遊泳するコクチバスを合計で 3 尾確認し、そのうち 1 尾を釣獲した。釣獲魚の胃内容物は、魚類、ヤゴ、エビ類であった（表 2）。なお、目視（透明度：2.9～3.4 m）により産卵床を確認することはできなかった。

今回、奥利根湖から下流域の洞元湖でコクチバスの生息を確認した。洞元湖の水温状況から、コクチバスの繁殖に適さない可能性が示唆されるが、今後、再生産状況の確認と生息原因の解明、さらに下流域での生息状況を詳細に把握する必要がある。

2 奥利根湖の駆除事業からの解析

駆除数は、2007 年の 4,406 尾から 2011 年には 487 尾と 10 分の 1 程度まで急激に減少してきており、漁獲努力量に変化がないとすれば、コクチバス生息数が減少してい

る可能性が示唆された（表 3）。さらに、奥利根湖における環境要因の変化が少ないと仮定すれば、駆除の効果は大きいものと考えられる。

【具体的データ】



図 1 洞元湖の概略

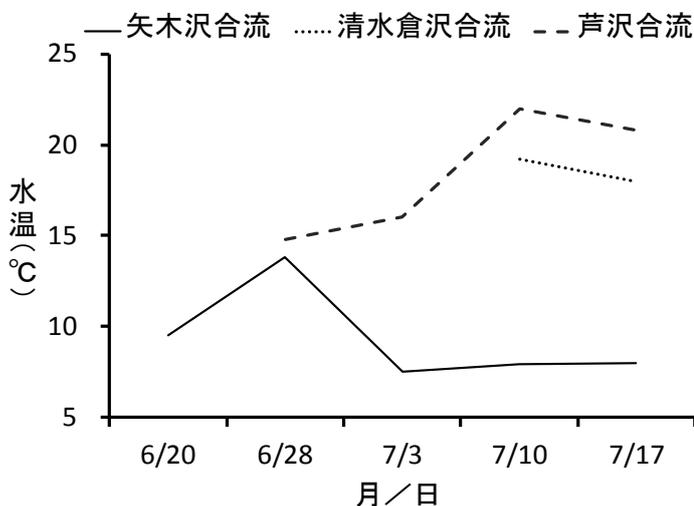


図 2 水温の地点別推移

表 1 生息確認調査結果

	6月20日	7月10日	7月17日
確認尾数(尾)	0	1	2
目視(尾)	0	1	2
釣獲(尾)	0	0	1
目視サイズ(cm)	—	20~25	40

表 2 釣獲魚の体サイズおよび胃内容物

全長(cm)	体長(cm)	体重(g)	生殖腺重量(g)	肝臓重量(g)	胃内容物(個体数)
38.4	31.0	940	78.9	19.1	魚類(8)、ヤゴ(1)、エビ類(3)

表 3 奥利根湖の駆除数の推移（方法別）

（単位：尾）

年	漁協			遊漁者	合計
	刺し網	釣り等	小計	釣り	
2003	2,103	1,627	3,730	2,972	6,702
2007	3,922	0	3,922	484	4,406
2008	4,164	0	4,164	284	4,448
2009	2,194	0	2,194	278	2,472
2010	1,123	0	1,123	232	1,355
2011	445	0	445	33	478